



富士のさと おはなし広場と自然遊び塾

令和5年10月～令和6年2月

○趣旨

幼児期における自然体験や本に触れる体験の機会を増やし、自然のもので遊んだり、さまざまな本に触れたりすることを通して、豊かな人間性を築く基礎を培うとともに、体験活動の重要性の普及と当交流の家の周知を図る。

○実施した御殿場市内の幼稚園（6園）・保育園（12園）・こども園（4園）

竈幼稚園、玉穂幼稚園、森之腰幼稚園、富士岡幼稚園、御殿場幼稚園、玉穂第1保育園、双葉保育園、高根第2保育園、富岳保育園、東保育園、印野こども園、原里第2保育園、みらい保育園、西保育園、高根第1保育園、玉穂第2保育園、高根学園保育所、神山認定こども園、原里幼稚園、すみれこども園、原里第1保育園、認定こども園ぶらんこ

○活動の流れ

1つの活動を基本30分間とし、3つの活動をローテーションして実施した。
（下記は基本的なタイムスケジュール、園によっては年長のみに対応）

	開始～0:30（30分間）	移動（5分間）	0:35～1:05（30分間）	移動（5分間）	1:10～1:40（30分間）
3歳児	削り華(かんなくず)を使った活動（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）
4歳児	身体を動かす活動（室外）		すべラップづくり（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）
5歳児	絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）		薪割り（室内）

【読み聞かせ】

○内容（活動の様子）

（1）絵本の読み聞かせ〔運営：御殿場市立図書館ボランティア〕

図書館ボランティアが自然に関する内容の絵本を選定し、読み聞かせを行った。ボランティアの方の話し方が温かく、聞き取りやすい話し方であった。季節に合った本を選んでいるので、子供たちは興味を持って話を聞いていた。

（2）自然のものを使った創作活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

御殿場市では、SDGsの理念に基づき、「木育」に関する取組を推進することで、持続可能なまちづくりの実現を目指している。そこで、どの学年にも「森林資源の循環利用」について話した。「使う」「植える」「育てる」「収穫する」というサイクルを子供たちの実態に応じてフリップを使って話した。3歳児の「削り華（かんなくず）を使った遊び」は、太さや厚さなどが違うかんなくずを数種類用意し、五感を使って自由に触れることで木の温もりを感じた。その後、動物の絵のシートにかんなくずを付けたり、袋にかんなくずを入れて魚などに見立てたりするなどの創作活動を行った。4歳児の「すべラップづくり」は、紙やすりを使って木の表面をつるつるに磨き、最後にストラップの紐を通した。5歳児は、キンドリングクラッカーを用いた「薪割り体験」を行った。キンドリングクラッカーは、薪を安全に割れる設計になっているため、子供たちは夢中になって薪を割った。初めての体験をすることができ、交流の家の教育目標である、様々な体験活動を提供することにつながった。



【削り華の創作活動】



【すべラップづくり】



【薪割り】

(3) 身体を動かす活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

「運動不足について抜本的に改善することが必要」とスポーツ庁が示したことや幼児期運動指針（文部科学省）、国立青少年教育振興機構「遊んで身に付く 36 の基本的な動き」を参考に今年度はサーキット運動を行った。また、サーキット運動の前に、新聞紙を落とさずに走るACP（アクアチャイルドプログラム）を導入で行った。子供たちにとってACPが初めての体験になったようで、楽しみながら体を暖めることができた。どうすれば新聞紙を落とさずに走れるか、体験を通して考え、実践する子供の姿があった。その後、できるだけ多くの基本的な動きを取り入れたサーキット運動を行った。基本的な動きではあるが、使う器具も豊富なため、子供たちは夢中になって次々に走り回った。少し難しい動きがあっても、繰り返し取り組むことで、「できた」と体感する子が増えた。徐々に慣れてくると、動き方や動く速さなどを変えることで、更に楽しみながら運動し、冬場の寒い時期であっても、汗をかく子もいた。子供たちは、励ましたり教え合ったりしながら取り組む姿が見られ、園の先生方から「普段見られない子供の姿が見られた。」という感想があった。また、「今の時代はけがをする子供が多いことや家庭からの意見があることなどから、思い切り運動に取り組ませてあげられない面があるが、やはり小さいうちから様々な動きを体験させてあげることが大切であると感じた。」という感想もあり、今年度の身体を動かす活動の意図が伝わったと感じた。

【ACP】



【サーキット運動】



《園からの声》

- おはなし広場の本は、子供たちに身近なものや季節感のあるもので、とても良かった。読むテンポ、間、声色などとても心地良く楽しませていただきました。
- おはなし広場では、いろいろなジャンルのお話があり、特に生き物の話に夢中になっていたように感じました。
- 外遊びでは、バランスを取ったり、身体全体を使ったりする動きがたくさん取り入れられていて、楽しく身体を動かしていた。「はう動き」は普段なかなかしないので、保育でも取り入れたいと思いました。
- 動きが難しく、止まってしまう子がいたが、自分で考えて周りを見て「やってみる」と挑戦し、できたことで自信につながっていました。
- 園にはない器具がたくさんあり、初めて体験する動きを夢中になって取り組んでいました。
- 初めて触れたかんなくずの違いに気付いたり、匂いを感じて身近な物が木からできていることを知ったり、驚く様子が見られました。
- すべラップづくりでは、初めてやすりを使って木を削る遊びを行うと、子供たちはとても真剣に取り組む姿が見られました。
- 根気のいる薪割りでは、徐々に割れていく木の様子に「あと少し」とその変化を見ながら、夢中になって木を打つ姿、割れた時のうれしそうな表情が印象的です。

《成果と課題》

- 身体を動かす活動や年長児の薪割り体験など、新たな取り組みを実践した。昨年度までの良かったことは残しつつも、時代に求められていることは変わるので、それに合わせて改善していくことが大切である。
- 御殿場市が保育を推進していることや令和8年度完成予定の「(仮) 富士山木のおもちゃ美術館」の運営理念も意識しながら取り組むことで、地域との連携強化につながるのではないかと。
- 薪割り体験を行ったが、割った薪を焼き芋に使えるなどの声があったが、「割った薪はどうするのか」という保育とのつながりがほしいとの意見があった。様々な体験を提供したいという理念は伝えたが、これらの意見にどう寄り添えるかを今後考えていかなければならない。
- 交流の家に来ていただいて、活動をすることができていない。公共施設との連携を模索し、交流の家で活動ができるように関係機関と調整できないかを検討していく必要がある。